

観能の夕べ

2015 summer
Evening Noh-theater



撮影：亀田邦平

【会場・お問い合わせ】

石川県立能楽堂

TEL.076-264-2598

〒920-0935 金沢市石引 4-18-3 月曜休館

各公演 1,000円 特別公演 3,000円

※いずれも高校生以下無料

※満席の場合、ご入場いただけない場合がございます。

【主催】いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会

【協力】(公財)石川県音楽文化振興事業団

【チケットのお求め】

石川県立能楽堂

石川県立音楽堂チケットボックス(076-232-8632)

香林坊大和プレイガイド (076-220-1332)

※駐車場は台数に限りがございますので、
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

金沢能楽美術館 期間中の催し

★観能の夕べ プレ講座 5回 16:00~17:30

- ① 7月 4日(土) 解説「花月」
- ② 7月 11日(土) 解説「経政」「羽衣」
- ③ 7月 25日(土) 解説「野守」「杜若」「殺生石」
- ④ 8月 15日(土) 解説「養老」「籠太鼓」
- ⑤ 8月 29日(土) 解説「天鼓」

参加料無料
但し、
要観覧料・
要申込み

★企画展好評開催中！ 9月27日まで
<花の風姿 能を彩る植物II>

★特別講演会 参加無料(但し、要観覧料・要申込み ※先着60名)

8月1日(土) 講師：河上繁樹(関西学院大学文学部教授)
13:30~ 舞囃子「半部」
14:00~15:30 講演「(花)をまとう-日本人の季節感と模様-」

お問合せ 金沢能楽美術館 TEL.076-220-2790

金沢市広坂1丁目2-25 10:00~18:00(入館17:30まで) 月曜休館(祝日の場合は翌日休館)
※7月4日~8月29日の期間、「観能の夕べ」のチケットをご提示くださると、
観覧料が団体料金になります。

世界無形遺産【能楽】



2015/7/4(土)

各回
解説付き

2015/8/29(土)

18:30開演(17:30開場)

7月4日(土) 解説/杉山 欣也

狂言 梟山伏 能 花月
●炭哲男 ●福岡 聡子

7月11日(土) 解説/西村 聡

狂言 宝の槌 能 経政
●能村 祐丞 ●佐野 玄宜

7月18日(土) 解説/児玉 信

狂言 水掛罨 能 羽衣
●炭光太郎 ●高橋 右任

7月25日(土) 解説/杉山 欣也

狂言 伯母ヶ酒 能 野守
●中島 恭介 ●渡邊 茂人

8月1日(土) 解説/西村 聡

狂言 咲嘩 能 杜若
●能村 祐丞 ●島村 明宏

8月8日(土) 解説/佐々木 香織

狂言 瓜盗人 能 殺生石
●炭哲男 ●広島 克栄

8月15日(土) 解説/飯塚 恵理人

狂言 雁礫 能 養老
●山田 譲二 ●高橋 憲正

8月22日(土) 解説/佐々木 香織

狂言 宗八 能 籠太鼓
●清水 宗治 ●松田 若子

特別公演

8月29日(土)

解説/西村 聡

仕舞 三山
●大坪 喜美雄

狂言 禰宜山伏
●能村 祐丞

能 天鼓 呼出 バンシキ
●宝生 和英

7月4日 土

解説 ● 杉山 欣也 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 梟山伏

炭哲男

能 花月

福岡聡子

春の都。7歳の子と生き別れ、出家した僧が清水寺にやってくる。花月と名乗る少年芸能者が現れて芸尽くしを見せるが、僧は花月こそ我が子であると覚って父子の対面を果たし、共に修行の旅に出る。

7月11日 土

解説 ● 西村 聡 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 宝の槌

能村祐丞

能 経政

佐野玄宜

自身の法要の場に現れた平経政の霊。往時を懐かしみ琵琶を奏でるが、やがて討ち死の無念がよみがえり、恥らいながらも修羅の苦患に巻き込まれていく。

7月18日 土

解説 ● 児玉 信 (能楽評論家)

狂言 水掛智

炭光太郎

能 羽衣

高橋右任

三保の松原。天の羽衣を持った漁夫の白竜は、天女の懇願に応じて天人の舞楽を奏することを条件に羽衣を返す。羽衣を着た天女は十五夜の月光のなか美しく舞いながら昇天を果たす。

7月25日 土

解説 ● 杉山 欣也 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 伯母ケ酒

中島恭介

能 野守

渡邊茂人

春日の里を訪れた山伏。どこからともなく現れた野守の老人は「野守の鏡」の謂れを語り、塚に消える。祈る山伏の前に大鏡を持った鬼が現れ、天上から地獄までの有様を見せるが、やがて大地を踏み破り去って行く。

8月1日 土

解説 ● 西村 聡 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 咲嘩

能村祐丞

能 杜若

島村明宏

三河の国。咲き誇る杜若に見入る僧の前に現れた杜若の精は、業平を歌舞の菩薩の化現として、在りし日の業平の形見を身にまとい伊勢物語の巻々の恋物語を舞う。

8月8日 土

解説 ● 佐々木 香織 (石川工業高等専門学校一般教育科准教授)

狂言 瓜盗人

炭哲男

能 殺生石

広島克栄

那須野の原の巨石のほとり。玄翁の前に現れた女は石の謂れを語り、自らを石魂であると明かして消える。その場で玄翁が仏事をしていると忽ち石が二つに割れて本性を現わした悪狐が、自らの悪行と調伏退治された有様を物語る。

8月15日 土

解説 ● 飯塚 恵理人 (福山女学園大学教授)

狂言 雁礫

山田譲二

能 養老

高橋憲正

美濃国本巣郡に出た霊泉の謂れを探るため勅使が養老の滝に赴く。そこに現れた親子は滝の謂れを語り、霊泉の場所を教える。やがて勅使の前に男体の山の神が現れ、颯爽と祝福の舞を舞う。

8月22日 土

解説 ● 佐々木 香織 (石川工業高等専門学校一般教育科准教授)

狂言 宗八

清水宗治

能 籠太鼓

松田若子

脱獄した夫をかばい身代わりに牢に籠められる妻。偽りの狂乱で哀れを誘い、夫の赦免を勝ち取る。

8月29日 土

解説 ● 西村 聡 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 彌宜山伏

能村祐丞

能 天鼓

宝生和英

天から降ってきた鼓を持つ少年・天鼓は、鼓を差出せとの勅命に背いて殺される。それ以来誰が打つても鳴らない鼓であったが天鼓の祖父が呼び出され鼓を打つと妙なる音が響く。親子の恩愛に感じ入った帝は盛大に音楽葬で弔うと、呂水の川面に天鼓の亡霊が現れ手向けの管絃に合わせて鼓を打ち鳴らす。

加賀宝生

金沢能楽会

五代藩主綱紀の時代より加賀藩では、能を愛好する藩主が続ぎ幕末まで能役者を手厚く保護しました。

その一方で、細工所の職人たちにも能楽の一部を兼芸させ、教養を高めさせると同時に能の人材として育成し、また領民たちにも推奨しました。これにより、世に「加賀宝生」といわれるほどの能楽の盛んな土地がらとなりました。一時、幕藩体制の崩壊によって加賀宝生も衰退しましたが、佐野吉之助師の登場により、一九〇一年金沢能楽会が設立され、以来一〇〇年以上の長きに渡り、連綿と伝統を受け継ぎ現在にいたっています。

現在、石川県立能楽堂において定期能を催し、通算回数は一、一〇〇回以上に及んでいます。

「観能のタベ」の終了時間は午後8時30分頃です。詳細は、金沢能楽会又は県立能楽堂のホームページをご覧ください。金沢能楽会のHPではその他魅力的な公演の情報も掲載しています。